

# 公民科学習指導案 (政治・経済)

指導日時 平成23年11月8日(火) 6校時  
指導学級 3年1組 40名  
指導場所 視聴覚室  
指導者 教諭 田原辰也  
使用教材 改訂版 高等学校 政治・経済  
(数研出版)

## 1 単元について

### (1) 教材観

今回取り扱う教材(単元)は、経済分野の第3章「国民経済と国際経済」である。

バブル崩壊以後、日本経済は長期の経済停滞を迎えた。実質経済成長率は、1990年代前半は年率で1.4%、90年代後半は1.0%とそれまでと比べ大きく低下した。また、消費者物価指数は1990年代前半は年率で1.4%、90年代後半は0.3%、実質賃金も低下し、1999年には戦後初めてのデフレとなった。この頃、「IT革命」による景気回復が期待されたが、1997年の消費税5%への上昇による個人消費の冷え込み、アメリカの「ITバブル崩壊」などによって回復しつつあった景気は後退した。しかし、2002年から日本経済は、長期の景気拡張過程に入り、2007年にはいざなぎ景気を抜き、戦後最長の好景気を記録した。ところが、07年秋には景気後退に入り、2008年以降、「リーマンショック」に端を発した世界的な経済減速に連動して、極めて大きい経済収縮により経済情勢は急速に悪化した。2009年春頃から外需と経済対策の効果にけん引されて持ち直し、2010年夏にはこれに猛暑効果やエコポイント制度も加わったが、秋に入ると猛暑効果の反動や「エコカー補助金」制度終了の影響も加わって、景気は足踏み状態となった。そして内閣府は10月12日発表した2011年度の経済見通しで、東日本大震災の影響による生産や個人消費の鈍化を踏まえて、実質国内総生産(GDP)成長率を昨年12月時点の1.5%から0.5%に下方修正した。

このように近年の日本経済を概観してみると特にここ数年の日本経済の変化の要因は、国内の政策等による要因だけでなく、アメリカをはじめとする諸外国の経済状況が大きく影響していることがわかる。これは、急速に進んできたグローバル化の中で、変動の激しいアメリカ経済、中国の経済成長、ユーロ圏の経済危機など、国際経済の動向が大きく影響しており、世界経済の動きを無視して、日本経済について考えることはできないということにつながる。更に、最近になり昨年から話題に上っていた環太平洋戦略経済連携協定(TPP)への参加についての議論が再び再燃し始めていく。一方で途上国に対する国際協力の要請や急速に進む円高から、混迷を深める国際経済における日本の役割に対する期待の大きいこともうかがえる。

生徒はこれまで経済について国民経済の側から日本の経済について学んできた。ただ、日本経済の現状を理解し、今後の日本のあり方を考察するためには、国民経済だけでなく国際経済について客観的に理解し、グローバル化が進む国際社会の特質について把握することが重要かつ必要不可欠となる。

### (2) 生徒観

公民の学習に関して、2年次に倫理を履修しており、政治・経済に関する学習は3年生で初めてとなる。成績については、3年1組は習熟度上位クラスということもあり、これまでの定期考査の平均得点率は、70%強と比較的高い成績である。4月以来、中学校での学習を踏まえながら授業を進めてきているが、個々の生徒の到達度の差が大きく、内容を再学習をしながら深めている。したがって、習熟度クラスとはいえ、指導には丁寧さが要求されるのが実態である。

生徒は、政治経済の学習に対して「取り組みやすさ」を感じている生徒は多い。また「わかりやすさ」を感じている生徒の割合と「政治経済に関心を持っている」割合との相関は高く、政治経済への関心を高めることが学習へのモチベーションを向上させ、基礎的知識の定着のためにも必要なことであると言える。

学習に取り組みやすい授業の形態として、ICTを活用した授業をあげる生徒が多く、ICTに

対して抵抗なく受け入れられる態度が備わっていることがうかがえる。

### (3) 指導観

グローバル化が進む現代の国際経済の特質を客観的に理解し、国際経済における日本の役割について考察させるのが、本教材の大きなねらいである。

国際経済について、理解しなければならない基礎基本の内容は、貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組みと現状、国際協調の必要性や国際経済機関の役割である。このような客観的知識をふまえて、日本の役割と今後の日本のあり方を主体的に考えさせるとともに、考察した過程や結果を適切に表現させることにも取り組ませたい。また、これらの学習に入る前提として、世界経済の動向について関心を高めることが必要であり、そのための導入の工夫をはかることも必要である。

国際経済という経済活動は、グローバル化が進んだ現代社会において、豊かな生活を求めるために必要不可欠な要素となっている。ここまで生徒は、経済分野の学習に入る際に、「経済とは何か」を把握した上で、国民経済について学習してきた。国際経済についても「経済」の目的である、「人々の豊かな生活の実現」のための活動の一つであるという立場に立ちつつ、国際経済の意義と特質について把握させたいと考えている。

また、ICTを活用することによって、学習に対する取り組みやすさを実現し、学習意欲の喚起と知識理解の促進を図りたい。

## 2 単元の学習目標

- (1) 国際経済の意義と国際経済の必要性を理解する。
- (2) 国際収支の中身と経常収支・移転収支の関係、外国為替相場について理解する。
- (3) 第二次大戦後の国際貿易体制の成立と変化について理解する。
- (4) 国際経済の推移と地域的経済統合の状況について理解する。
- (5) 国際における日本の役割について理解する。

## 3 単元の学習計画（全5時間）

- (1) 国際経済の意義と貿易（本時）
- (2) 国際収支と外国為替相場
- (3) 戦後の国際貿易体制の成立と変化
- (4) 国際通貨体制の動揺と地域的経済統合の発生・現状・今後の見通し
- (5) 国際経済における日本

## 4 本時の実際（1／5）

- (1) 主題 「国際経済の意義と貿易」

### (2) 学習目標

ア 日本経済を取り巻く国際経済に関する最近の出来事を通して、国際経済に対する関心を高めるとともに、国際経済の意味と学ぶことの意義・必要性を理解する。

イ 国際経済の中でも重要な位置を占める貿易について、貿易がなぜ行われるかについて考え、貿易の仕組みを説明できる。

ウ 二つの貿易理論と国際的分業の種類について理解する。

### (3) 評価の規準

ア 関心・意欲・態度……発問に対して積極的に反応し、表現しようとする。

イ 思考・判断……国際経済や貿易の意義について、主体的に考え表現しようとする。

ウ 知識・理解……国際経済の概要と貿易について、具体例をあげて説明できる。

(4) 授業の展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	5分	一斉・ペア	1 国際的な経済の話題として、最近のようなことが起こっているか発表する。 2 複数の国家の国民経済をつなぐものが国際経済であることを把握する。 3 本時の学習課題①を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">国際経済の意義は何か。</div>	発問：「国際的な経済の話題として、最近のテレビや新聞でどのようなことが報道されているか。」 ・ 発問の後、指名→発表→板書を3人程度 ・ 隣同士で話し合わせた後、発表させる。
展開①	15分	ペア・一斉	4 時事的な話題の中で、特にTPP（環太平洋戦略的経済協定）が日本経済に与える影響の概要について、自分たちの考えを発表した後、授業者の補足説明によって理解する。 5 以上の活動を通して、国際経済とはどういうものか・なぜ必要かを理解し、単元の学習内容についての概要を把握する。	・ ICTを活用すると同時に資料プリントも配布する。 ・ 発表の前に隣同士で話し合わせ、考えを確認させる。 ・ 国際経済も「経済」という活動の一つであることに着目させ、その意義を理解させる。 ・ 授業者の補足説明後、板書事項を学習プリントに記入させる。
展開②	22分	一斉・ペア	6 本時の学習課題②を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">貿易はなぜ行われるのか</div> 7 貿易とはどういう経済活動か、知識の確認をする。 8 貿易はなぜ行われるのか考え、発表する。 9 学習プリントを使って、貿易のしくみについて理解する。 10 リカードの「比較生産費説」を通して、国際分業の利益について理解する。 11 貿易理論について、リカードとマルサスの二人の学者によって提唱された、自由貿易論と保護貿易論の二つの貿易理論があること、そして国際分業をすすめる理論が自由貿易論であることを理解する。 12 国際分業には水平的分業と垂直的分業の二つの型があることを理解する。	発問：「国際経済という経済活動の中で、最も重要な活動は何か。」 発問：「貿易とはどういう活動か。」 発問：「貿易をなぜ行うのか」 ・ 生徒の貿易についての理解度を確認する。 ・ ICTを活用し、学習プリントを提示しながら説明する。 ・ 「比較生産費説」のポイントについて板書を使って説明する。 ・ 自由貿易と保護貿易の違いについて、TPPの基礎知識を用いて理解させる。 ・ 板書を使って説明する。
終末	3分	一斉	13 本時の学習内容を振り返り、次時の学習が「国際収支と外国為替相場」であることを確認する。	